

全国連盟通信

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402
TEL:03-3986-5401 FAX:03-3986-5403
Eメール:zenkoku@njsf.net ホームページ:http://www.njsf.net

発行責任者 石川正三

世代と種目を越えて、 希望の芽をはぐくもう

今年4月の第5回理事会後、各都道府県連盟・各全国種目組織の皆さんは、加盟クラブ・チームはじめ、スポーツ愛好者の願いに応え多面的な活動を進めてきました。

第一に、6月22日に東京で開催した「プロGRESS」会議（組織発展・世代継承推進のため交流会）は、これまでになく新しい参加者、若い参加者が多数を占め、新鮮で活気のある会議となりました。楽しくスポーツ連盟で活動し、仲間を増やしていくにはどうすれば良いかを、7つの班に分かれて討論し、組織拡大のスローガンとして「スポーツはかきねを越えて～世代・種目の交流線～」を参加者の総意で作りました。この取り組みの経験とスローガンを全国に広げたいものです。

第二に、全国種目組織や都道府県連盟の地道な努力の結果が新しい希望の芽をはぐくんできています。各地の仲間が気遣っていた北海道テニス協議会がこの6月、活動再開の確かな一歩を踏み出しました。さらに、テニスでは宮城や岡山で新たな組織作りの努力が進んでいます。

札幌の野球リーグや高知市ソフトボールリーグがリーグごと加盟を希望し、受け入れのための話し合いが進みつつあります。高知県連盟が10年ぶりに総会を持ち新たな役員体制を確立し、それに伴い、全国卓球協議会が進めてきた「出前大会」との協力・連携が生まれています。

卓球協議会は、長年の出前大会の成果を实らせ、

新たに群馬、岐阜、長崎、熊本で協議会を確立しています。

同時に、役員の高齢化などがすすむ中で、組織運営の到達点と経験を次世代につなげていくことが大きな課題になっています。中心役員が病気や家庭の都合などから突然活動から離れ、継続的な活動ができなくなることも少なくありません。役員体制の拡充・強化が急がれます。

第三に、「2019反核平和スポーツのつどいin広島」をはじめとするスポーツを通じた平和の取り組みは、広島県連盟の協力も得て、記憶に残る夏の取り組みとなりました。来年は、被爆75年を迎え、核兵器禁止条約の発効実現の節目の年です。

第四に、来年は2020東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。オリンピック運動は、スポーツという世界共通語のもとで、世界の人々がフェアに競い合い、友好を深め、個人の尊厳と多様性を尊重し広げることを通じて、社会から、戦争と暴力、差別と憎悪をなくし、平和を実現する運動です。私たちは、開催国のスポーツ団体として、2020東京オリ・パラをその目的にふさわしいものとして行われるようさらに努力します。

2020年3月には、第34回定期全国総会が行われます。創立55周年でもあります。スポーツ界も大きな転換期となるでしょう。全国のみなさんの総意で新たな前進の時代を拓きましょう。

（新日本スポーツ連盟会長 和食昭夫）

第6回理事会報告

2019年8月24日(土)～25日(日)
東京・池袋の会議室にて

8月24～25日に第33期第6回理事会が開催されました。冒頭、和食昭夫会長は「先日行われた『プロGRESS(組織発展・世代継承推進のため交流会)』は、いろんな活動の教訓をふまえて、これからスポーツ連盟をどう大きくできるかを考える場となり、熱意があふれていた」と挨拶しました。議論された主な内容は以下の通りです。

①スポーツ活動・組織局

・「プロGRESS」で決めたスローガン「スポーツはかきねを越えて～世代・種目の交流線～」を生かせるように、各地域で「プロGRESS」のような取り組みができないか検討する。また、参加者の今後の活動の話、「スポーツのひろば」の「元気印」に取り上げる。

・全国テニス協、全国ランニングセンターとの懇談会を実施。ともに各地協議会・役員との間の情報共有が課題。全国連盟としてもサポートしていく。

・中長期の空白対策助成金制度は、来年度予算からの実施を目標に、助成制度のルールを再検討する。

・全国スポーツ祭典について、第34回(2022年)は中国・四国ブロック主管体制で準備を進める。第35回(2024年)は九州ブロックに打診する。

②スポーツ権・平和運動局

・2020年7～8月予定の「福島～東京～広島～長崎1800km反核平和マラソン」は各ブロックでランナーを集め、タスキリレーをする体制をとってもらう。この運動のために募金を実施し、平和マラソン開催の訴えの動きを作ることが大事。

・今年の広島～長崎平和マラソンでは、暑さ指数が常時31℃を超える状態になったらランを中止した。基準どおりに、中止する勇気も必要。

・広島～長崎反核・平和マラソンについて、全国連盟は今後、共催組織として適切な予算措置を行い、各組織などに協力・支援を呼びかける。

③国際活動局

・フランスFSGTに代表団3名が訪問、懇談会を行った(5/26～6/5)。交流協定を更新し、自費参加での認める方向となった。

・FSGTセヌ・サン・ドニ委員会から、2020東京五輪と2024パリ五輪を機に、市民社会参加の考え方や、平和文化を培う青年交流事業を行いたいと提案があった。10月にフランス担当者と相談する予定。

④広報局

・今年12月まで、「スポーツのひろば」普及強化期間として取り組む。多く普及した都道府県連盟に「ひろば普及賞」として、都道府県連盟特集を企画・掲載。

・「ネットからの参加申込システム」試作版の案内を広く宣伝し、テストできる大会を募集する。

⑤総務局

・パワーポイントでの「スポーツ連盟の活動を説明する資料」を作成し「プロGRESS」で活用した。

・2020年3月全国総会で30年または50年以上の加盟クラブを表彰するよう、推薦の募集を開始する。

⑥スポーツ科学研究所

・9/15～14に第10回研究会を奈良で開催する予定。

⑦分担金・組織検討委員会

・今回、事前に「分担金」のあり方について全国理事へのアンケートを実施。「都道府県連盟の有無にかかわらず、全国連盟への分担金がどの地域でも同じくらいの金額になるようにする」という提案に対しては賛否両論、意見が分かれた。

・「結論急がずに時間をかけたほうがよい」という意見があり、理事会での議論をふまえ、分担金・組織検討委員会で、全国総会(来年3月)への報告・提案の内容をどうするか検討することになった。

⑧機構・役員検討委員会

「総会の運営改善に向けて、機構も含めた抜本的な見直しを図るため、総会、評議員会の役割を以下のように変更し、それに合わせて規約を修正する」という提案がされた。

案	①総会＝方針の具体化や組織の前進に向けた多様な論議する。
	②評議員会＝次期スポーツ連盟の方針、財政、役員選出を決める。

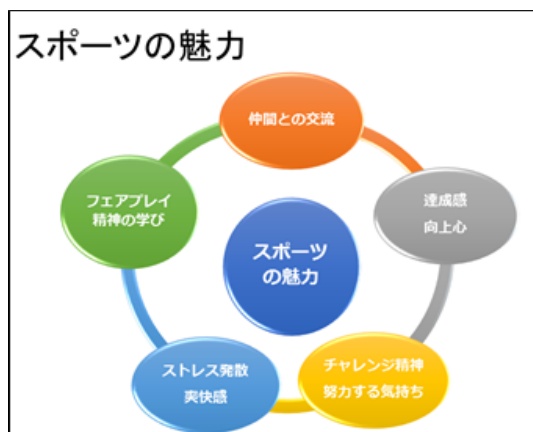
これに対し「機構や規約の変更は性急」「機構を変えずに時間の活用が可能ではないか」などの意見があり、再度検討し直すことになった。

最後に石川正三理事長から「次回12月の理事会は、全国総会に向けた議案について議論することになるので、なるべく早めに提案できるようにしたい。今後も引き続き、各地・各種目の活動状況をつかんで、新たな組織を作る取り組みにつなげていきたい」と挨拶があり、閉会しました。

プロGRESS（組織発展・世代継承推進のため交流会）

6月22日（土）に全国連盟主催の「プロGRESS（組織拡大交流）」が開催されました（東京都北区・北とびあ）。全国各地から44名が参加しました。

午前中は足立区特別支援学校の教諭で、パラリンピック水泳日本代表のコーチも務める岸本太一先生の講義がありました。「スポーツの魅力を考える」とのタイトルで、参加者へスポーツの魅力挙げてもらうことから始まりました（皆さんが考えるスポーツの魅力は下図・岸本先生がアンケートを基に分析）。パラスポーツの紹介や自身のパラリンピック指導での経験の話などが紹介され、障がい者スポーツについて、普段なかなか目が向かない話題をわかりやすくお話していただきました。




スポーツはかきねを越えて ～世代・種目の交流線～


各班からの報告の後、参加者による投票で良いと思うスローガンが決定。「スポーツはかきねを越えて～世代・種目の交流線～」が選ばれました。新日本スポーツ連盟は一つの種目ではなく、いろんなスポーツを通して楽しさを伝える団体であるとアピールしていきたいことと、世代や種目の違うものを線としてつなげていきたいとの思いから、「交流戦」ではなく「交流線」としたとのことでした。

このスローガンを、組織拡大に向けた参加者が一つになった思い・到達点としてとらえ、スポーツ連盟での様々な活動にどう生かすかが課題です。また、このような集まりを各地域でも開催できないかを検討したいと考えています。スポーツ連盟関係者の繋がり強化や相互理解を深めていくことで地域からも組織拡大への手がかりをつかむきっかけづくりに役立てたらと思います。この交流会での誕生したスローガンは様々な場面で、組織拡大の合言葉として活用していただければと思います。またプロGRESSに参加した後の皆さんの活動の様子も、スポーツのひろば等で報告できたらと考えています。

最後に「プロGRESS」は、名前の通り前進、発展への道しるべとなったことを確信し、またスローガン通り各地で「点」として活動している人を「線」で結ぶ種目を越えた交流会となりました。

（スポーツ活動・組織局 宮内泰明）



<https://www.njsf.net/w/miryoku/>
↑コチラから QRコード→ 

岸本先生の講演を
ネットで視聴できます

グループに分かれて 「組織拡大スローガン」を議論

午後からは「楽しくスポーツ連盟で活動するには／スポーツ連盟で活動する上で仲間を増やしていくには」をテーマに7班に分かれてグループ討論を行いました。そのなかで「組織拡大のスローガン」を各班から出してもらうことを目標としました。

途中、ヨガインストラクターの雨宮厚子先生によるヨガでリフレッシュ。呼吸を意識すること、自分の身体を大事に思う時間を持つことなどを考えさせられました。



①広島～長崎平和マラソン出発式 ②広島城公園ランニング&ウォーク ③語り部・松田さんの講義 ④交流の夕べ ⑤平和大好き卓球大会

8月3～6日、広島県内各会場で「2019反核平和スポーツのつどいin広島」が開催されました。

◆スケジュール

- 8/3 (土) 平和大好き卓球大会
- 8/4 (日) 国民平和大行進終結集会
- 8/5 (月) 碑めぐり, 平和記念資料館の見学,
反核平和マラソン交流の夕べ
- 8/6 (火) 広島城公園反核平和ランニング&ウォーク,
広島～長崎反核平和マラソン出発式,
呉市ピースウォーク

8/5 午後は、語り部・松田久美子さんのプレゼンテーションと、リニューアルされた平和記念資料館の見学。松田さんの話では、平和記念資料館に展示されている被爆直後の生々しい状況を被爆者自身が描いた絵の展示を是非見て欲しいとの訴えが印象的でした。

その後、18時半からは「反核平和マラソン交流の夕べ」が始まり、32名の参加で、各地で創意工夫しながら継続されている反核平和マラソンの報告がされました。例えば、東京では「うたごえ運動」とコラ

ボした事例や沿道の人たちにアピールするために蛍光色のTシャツを全員で着用したこと、福岡では当初原爆投下目標地であった小倉をコースに取り入れる等々、平和運動を追求してきた努力を垣間見る思いがしました。そのなかで 沖縄から参加者も含め、広島から長崎までの 500kmを走るランナーたちの挨拶に大いに盛り上がりました。

平和の尊さを感じて

8/6は、朝7時に広島城公園1周1.6kmの今回で33回目となる広島城周回8・6ヒロシマ「平和マラソン・ウォーキング大会」を実施。総勢28名のランナーとウォーカーが集い、爽やかな汗を流しました。その後、広島～長崎500km平和マラソン出発式へ移動。総勢20名余のランナーが原爆投下の8時15分 黙とうの後、長崎に向けスタート。

ランナーの皆さんを見送った後、7名が「呉市ウォーキング」の旅へ。入船山記念館（海軍の町でもあった呉市の歴史を語る上では外せない建物）を見学後、「大和ミュージアム」を約1時間見学。距離にして約5km、平和の尊さを感じたウォーキングでした。



①フランス訪問団(左から笹舘博さん、佐藤静雄さん、藪並郁子さん) ②エマニュエルFSGT共同代表と ③歓迎会(FSGTオフィスで)

5月27日～6月5日まで、新日本スポーツ連盟を代表して、3名でフランスを訪問してきました。今回の訪問の目的は、①F S G T(フランス勤労者スポーツ・体操連盟)との会議、②招待レース「フーレコシヨワ・ロードレース」への参加の2つです。

自費参加も認める方向に

F S G Tとスポーツ連盟との出会いは、今から46年前、東ドイツ(当時)で開催された世界青年学生祭典でした。その後、双方の総会やシンポジウム、ランニング、サッカー、スキー、卓球などのスポーツ交流、反核平和マラソンへの参加などを通じ親交を深めてきました。これらの経緯を経て、2006年3月両者間での「交流協定」締結が行われ、現在に至っています。

今回の「交流協定」の更新では、招待ではなく自費

での参加も認める方向になりました。これにより、より多くの方々の交流が可能となります(受け入れ団体との調整・合意が必要)。

今後の計画として、スポーツ連盟では、来年の反核平和マラソンにF S G Tから5名、再来年の国際シンポジウムに2名を招待する準備があることを伝えました。また、神奈川県連盟など地方レベル同士での姉妹関係の構築についても提案をし、良い感触を得ることができました。

フランスでの会議では、反核マラソンや横浜駅伝などに参加された方々も出席し、久しぶりの再会と友情を深めることができました。F S G Tとスポーツ連盟の絆を確認し、次回は日本で再会することを約束し、実り多い日程を終了しました。

(国際活動局 藪並郁子)



【ご案内】

F S G Tでは、柔道やバレーボール、水泳、登山などのグループとの交流を希望しています。また、子供たちのスポーツ・文化交流プログラムへの希望もありました。ご関心のある団体はぜひご連絡ください。国際局では交流の調整、コーディネートなどお手伝いします。

◆FSGTとの会談、レセプションの後セーヌサンドニ委員会を訪問、役員会の後、公式レセプションを設けていただいたが、3年前フランスから外へ出た経験もないメンバーが神奈川から招待を受けいろいろ貴重な経験をすることができたことへの、お礼の言葉を聴き、国際交流の必要性和合わせて、うれしい気分でホテルへ帰りました。(国際活動局 佐藤静雄)

◆フーレ・コシヨワズロードレースは5月30日～6月1日の3日間で65kmを走るローカルなレースです。私は体調に合わせて34kmを走りました。ノルマンディ地区の教会巡りでは、モン・サン・ミッシェル修道院が一番印象に残りました。次回、このような機会があったら若い方に経験してもらいたいです。

(神奈川県連盟 笹舘博)

2019 国民平和大行進

一歩でも二歩でも一緒に



新日本スポーツ連盟では、だれもが気軽に参加できる平和活動として、ウォーキングクラブをはじめ都道府県連盟、各種目組織がこの国民平和大行進に参加しています。今年も東京～広島コースでは、5月6日の出発式から8月4日の広島集結集会まで、「スポーツは平和とともに」の旗と参加者の声を書き綴ったノートが引き継がれました。

また、通し行進者として、「広島→長崎コース」を藤元理津子さん（日本勤労者山岳連盟）、「宮崎→長崎コース」を竹田昭彦さん（スポーツ連盟神奈川県連盟）が歩きました。

海外からは、スポーツ連盟と友好関係にある団体、韓国体育市民連帯からアン・スルギさんが来日し、国際青年リレー行進者として茨城～東京、佐賀～長崎を歩きました。



岩手

盛岡ウォーキングクラブのメンバー 11名が参加、手作りの旗を掲げ元気に歩きました。



岡山

岡山卓球協運営委員の方々が「スポーツは平和とともに」の旗をつないで歩きました。



兵庫

兵庫スキー協の釣順信さんが県内通し行進者として元気に歩きました。



大阪

大阪スキー協などのメンバーが大阪市内コースを歩きました。



東京

神奈川

東京から神奈川へスポーツ連盟の旗を引き継ぎました



通し行進者 藤元さん(労山)
「平和と登山」訴え歩く

「平和と登山」の旗を掲げ、核兵器廃絶！を声を大にして歩いてきました。私たちの理念は「平和無なくて登山、スポーツ無し」。この思いを胸に各地の山仲間と歩くことができ、今まで以上に平和行動への連帯を深めることができました。

(藤元理津子さん・写真一番左)



韓国体育市民連帯から
国際青年リレー行進に参加

皆さんの平和への想い、自作の歌を歌って教えてくれた人など、韓国のことを嫌う人がいるのではないかと心配していた私が恥ずかしくなるほど、みなさん親切。平和行進は一人ひとりの一歩が大きな運動をつくると実感しました。(アン・スルギさん「週刊うたごえ新聞」より)



佐賀

藤元さん、竹田さん、アン・スルギさんが佐賀で合流しました。



広島

スポーツ連盟広島県連盟の10名が、東京～広島コース最終区間を歩きました。

2019年12月までは 「ひろば」普及強化期間

各地大会
結果・レポート
募集中！



各地の種目組織などの役員・スタッフ・協力員の方や常連クラブに購読をすすめたり、SNSで「ひろばに載りました」と宣伝するなど、普及活動にご協力をお願いします。

12月の普及強化期間終了時点で、多く普及していただいた都道府県連盟(2019年5月比)には、「ひろば普及賞」として「都道府県連盟 特集」を掲載します。

ひろば編集部で、コンテンツを企画し、都道府県連盟(または、都道府県連盟に所属する種目組織・クラブなど)が、どんな活動をしているのか、どんな方々が連盟を支えているのかを紹介する記事を作成したいと思います。

「Webから大会申込システム」を試してみませんか？

スポーツ連盟主催の大会運営効率化を図るために、全国連盟広報局では「Webから大会参加申込システム」のサービスを提供しています。

これを活用すれば、スマホから申し込まれた内容を、自動でエクセル形式のデータに集約するまことができます。

大会運営効率化を図れます

メリット

- ・パソコンやスマホから楽に申し込み
- ・エントリー時の参加者の郵送料負担ゼロ
- ・申込後、すぐに参加者に自動でメール返信、安心
- ・主催者が、参加者情報をPCに入力作業ナシ
- ・申込データをそのままプログラム作成に使える

▼ハガキ (FAX) 申込の場合



Webから申込フォーム サンプル
https://www.njsf.net/zenkoku/sample_form/

▼Webから大会申込システムの場合



QRコードから↑
サンプルフォームに
アクセスできます。

「Webから大会申込システムを試してみたい」という方は、全国連盟までお気軽にお問い合わせください。

第33期全国会議及び主要事業予定一覧

(2019年9月～2020年3月)

全国会議・事業

都道府県連盟・全国種目組織

9月15～16日	スポーツ科学研究所第10回研究会	
28～29日		東日本ソフトボール大会(茨城)
10月 1日	「スポーツのひろば」11月号発行	
27日		サッカー FinalCup(神奈川)
11月 2～3日		西日本ソフトボール大会(徳島)
9～10日		全国軟式野球大会(岡山)
9～10日		全国6人制男女バレーボール大会(愛知)
16～17日		全国シニアサッカー大会(大阪)
23～24日		全国テニス大会(愛知)
12月 8日		平和マラソン(愛知)
7～8日	33期第7回理事会(東京)	
7～8日		全国ミックスバレーボール大会(愛知)
14～15日		全国卓球選手権大会 一般の部(広島)
21～22日		第15回全国スポーツ大会バドミントン大会個人戦(愛知)
2020年		
1月	全国会議・事業	都道府県連盟・全国種目組織
2月 8～9日	33期第2回評議員会・第8回理事会(東京)	
22～23日		全国卓球選手権大会 年代別の部(三重)
29～3/1		全国スキー競技大会(長野)
3月 7～8日		スキー協CUP(新潟)
14～15日	第34回定期全国総会(東京)	

*追加・訂正があれば全国事務局まで随時ご連絡ください。

30年または50年以上 在籍クラブを表彰します!

今期も、長きにわたり新日本スポーツ連盟で活動を継続してきたクラブを顕彰する取り組みを行います。

▼顕彰の種類・内容

①ゴールド:30年以上(1990年1月1日以前から加盟)

※ただし、過去に顕彰されたクラブを除く

②プラチナ:50年以上(1970年1月1日以前から加盟)

ぜひ都道府県連盟、全国種目組織から30年以上在籍のクラブを積極的に申請していただきますよう、よろしく申し上げます。

締切:2019年11月15日(金)まで

詳細は、

スマホで右のQRコードを

読み取ってアクセスできます



スポーツ連盟の 傷害見舞金制度

スポーツ仲間の
「助けあい」を!



1行事
1人70円

(1大会2日間まで対応)

行事加入型

スポーツ連盟もしくは加盟団体・クラブが主催する競技大会等の行事で発生した傷害と特定疾病を対象に給付が行われます。

災害・復興支援活動について

東北復興支援「義援金報告」

第33回定期全国総会資料(2018年3月10-11日)以降の内訳

義援金募金の受付はありませんでした

義援金(スポーツ連盟支援募金)充当状況

行事・競技会、ボランティア活動への支援金

労山・子どもプロジェクト 2019/7/27-28	50,000
復興支援福島卓球大会 2019/8/18, 9/1	150,000

2011年からの義援金受付・状況

連盟支援募金・FSGT支援募金 総額	10,415,085
執行合計	9,955,054
募金残高	460,031